

児童養護施設に入所している児童の コミュニケーション

—全国603施設に質問紙調査—

特定非営利活動法人JAMネットワーク代表
ことばキャンプ主宰
高取しづか

研究目的

全国の児童養護施設に入所する児童と職員のコミュニケーションについて実態調査を行い、現状を明らかにする

研究対象

全国603の児童養護施設で子どもと日常的に接する職員

調査方法

**無記名の質問紙を郵送して行う調査。質問紙は3種類
(就学前、小学生、中高生)**

調査期間

2017年10月6日～10月末

調査主体

特定非営利活動法人JAMネットワーク

(株) ジョンソン&ジョンソン助成プログラムにより実施

倫理的配慮

- ・ 無記名の質問紙調査であり、所属機関も記入者も特定されない
- ・ 各自が返信用封筒を用いて投函する方法をとるため、調査へ回答しないことの自由は確保されている
- ・ 神奈川県立保健福祉大学倫理委員会に申請し承認を得た

アンケート集計と結果

	幼児	小学生	中高生
配布数	603	603	603
回収	176	196	183
回収率	29.2%	32.5%	30.3%
有効回答数	148	176	164

集計・分析協力: 跡見学園女子大学大学院人文科学研究科
臨床心理学専攻修士課程2年 掛山裕晋

アンケート結果

- **Q1** コミュニケーションの課題について **80%の職員が「とてもある」「ある」と答えていた。**
- **Q3** 子どものコミュニケーションの課題としてあげられたうち上位は
「まとめて伝えることができない」 (89%)
「語彙が少ない」 (85%)
「意見を伝えられない」 83%
- **Q3-8** 「話してくれない、黙ってしまう」 (34%) は少なかった。
- **Q9-1** 職員は「子どもの話を聞く余裕がない」は「そう思う」 (22%) 「まったく思わない」「思わない」 (57%) という回答だった。
➡職員は**話を聞いている**
- **Q9-2** 職員は「トラブルをことばで解決するよう促している」 (98%)
「できるだけ話を聞くようにしている」 (98%) だった。

アンケート結果

● **Q4** コミュニケーション力の不足が、退所後自立に影響を与えていると思うかという問いに対して「そう思う」「思う」(85%)で、**中高生のアンケートでは(89%)**と高かった。

● クロス集計では、**Q3-1**の「自分の意見が伝えられない」と**Q9-2**「子どもたちの話を聞く余裕がない」の項目間において、人数の隔たりがあった。

つまり、職員から見て子どもたちの多くが「**自分の意見が伝えられない**」と感じていると、職員は「**子どもの話を聞く余裕がない**」ことが示された。

● **Q9-1**の「子どもたちの話を聞く余裕がない」と勤続年数の間で人数の偏りがあった。

つまり、**10年以上勤務している職員**は「**子どもの話を聞く余裕がある**」ことはめったになく、「**どちらともいえない**」者が多いことが示された。⇒**忙しい**

アンケート結果

- 子どものコミュニケーション力の具体的な内容 (130)

Q2

- ① 自分の気持ちをうまくことばで伝えられない
- ② 話が聞けない
- ③ 語彙が乏しい

- コミュカ不足が自立に影響しているか。具体的な内容 (123)

Q5

- ① 助けが求められない。SOSが言えない
- ② 対人関係がうまく結べない。誤解を受ける
- ③ 孤立してしまう

課題

- ・ 比較群として、一般家庭の子どもへの実態調査をする必要がある
- ・ コミュニケーション力の育成について必要、との回答はあったが、実際にどのような方法で取り組んでいるかは明らかになっていない
- ・ コミュニケーション研修を受けた者と受けていない者とは、子どもたちのコミュニケーション力に差があるか、子どもたちに対して抱く気持ちに差があるかの検討までには至らなかった